




令和5年度
「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」
成果発信シンポジウム

採択校からの成果報告
「名古屋商科大学におけるDP事業の成果」

事業計画責任者
名古屋商科大学 商学部長 小野 裕二



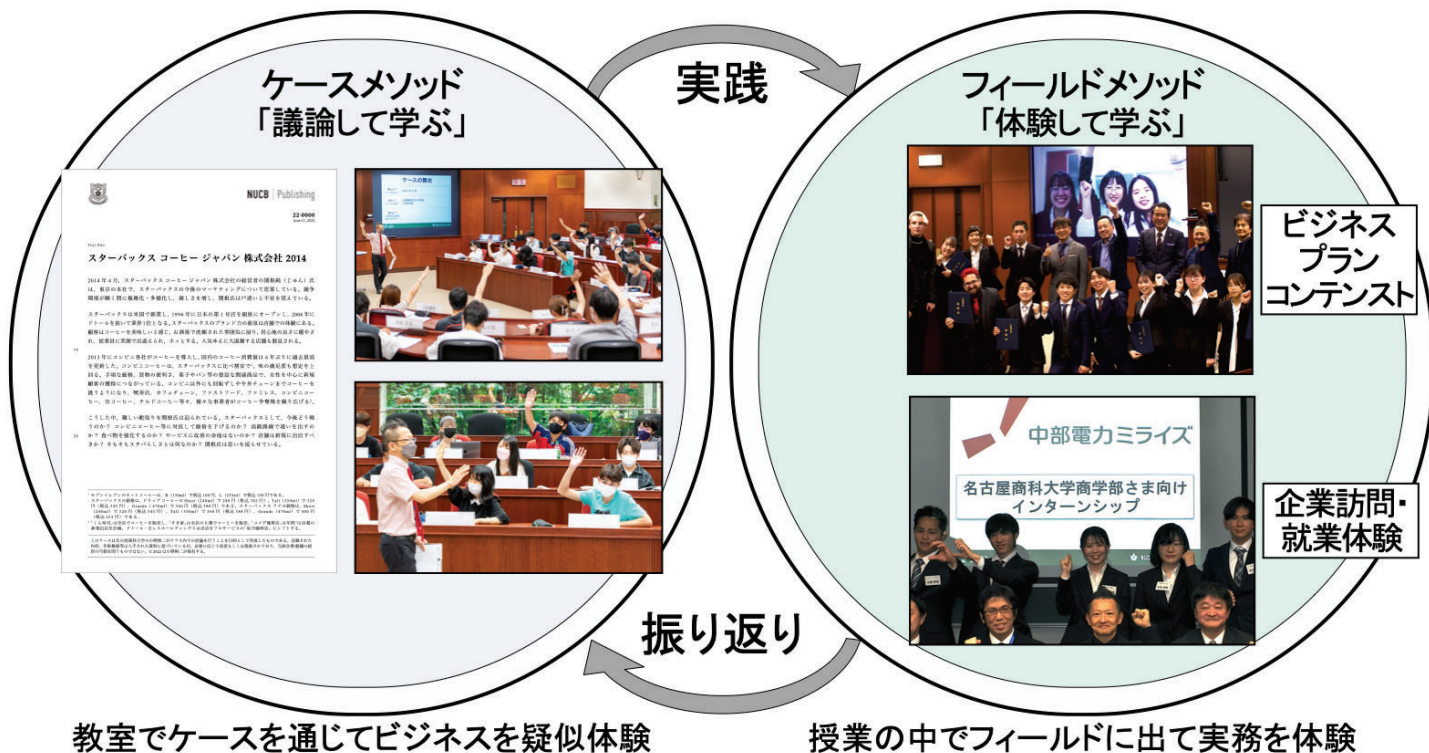
名古屋商科大学の概要

創立	1935年(大学設立は1953年)
ビジネススクールの国際認証	   トリプルクラウン校は国内唯一 世界124校のみ(1%)
大学のミッション	「フロンティア・スピリット」を備えた創造的で倫理観あるリーダーの育成
学部の構成	<ul style="list-style-type: none">・商学部(会計学科・マーケティング学科)・経営学部(経営学科・経営情報学科)・経済学部(経済学科・総合政策学科)・国際学部(国際学科・英語学科)
教育の特長	<ul style="list-style-type: none">・ケースメソッドを全学的に推進。・2019年度から4学期制を全学的に導入し、「ケースメソッド」の教育的効果を高めてきた。・2021年2月に商学部が改革構想を打ち立てる。<ul style="list-style-type: none">→「ケースメソッド」の効果を高める目的で、「フィールドメソッド」をインテンシブかつ相乗的に組み合わせ実践し、商学部としての特色を打ち出し、産業界や地域社会に貢献するリーダーを養成する。→本補助金事業(インテンシブ教育事業)の採択に至る。



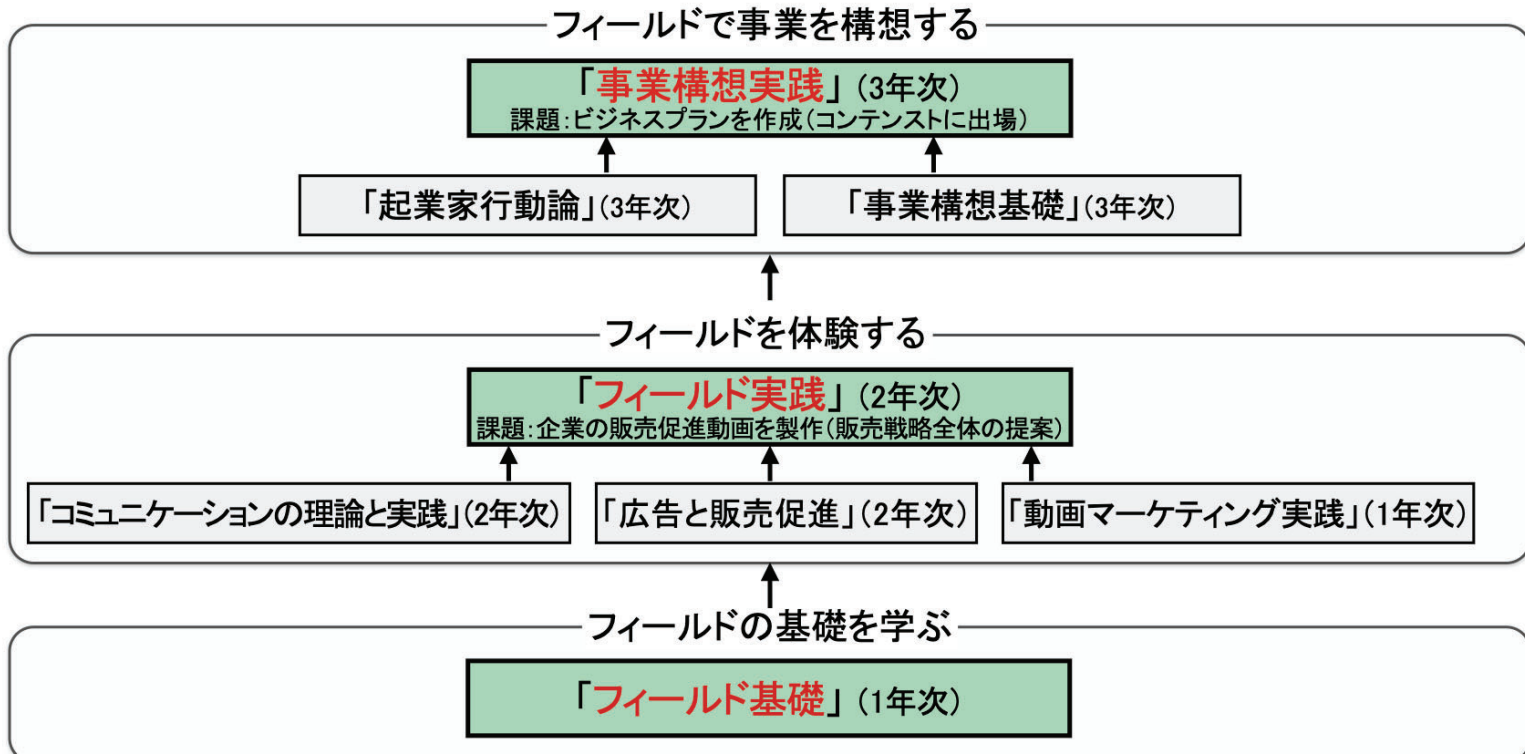
商学部のインテンシブ教育の骨子

取組名 ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成



商学部のインテンシブ教育の骨子

3つのモジュール(「フィールドの基礎を学ぶ」「フィールドを体験する」「フィールドで事業を構想する」)から構成される。モジュールごとにフィールド系のコア科目(赤字の3科目)が存在する。



インテンシブ事業のロードマップ

令和3～5年度に至るまで計画通りにすべて実行。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
プログラムの開発	<p><カリキュラム関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ授業のシラバス ・パイロット授業開講 ・ビジネスプランコンテスト(ビジコン)開催 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業のルーブリック構築 ・外部評価の実施 <p><広報></p> <p>学外への案内(リーフレット)キックオフシンポジウム</p> <p><リソース></p> <p>人材確保, 機材調達(AV設備・機材, 動画編集系ソフト), 教室整備, システム導入</p>	<p><カリキュラム関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ授業の実施 ・授業内で就業体験実施 ・ビジコン開催 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに基づく学修到達度評価の実施 ・外部評価の実施 <p><広報></p> <p>学外への案内(リーフレット)</p> <p><リソース></p> <p>人材確保(教員採用), 機材調達, 教室整備, システム導入</p>	<p><カリキュラム関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ授業の実施 ・授業内で就業体験実施 ・ビジコン開催 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに基づく学修到達度評価の実施 ・外部評価の実施 <p><広報></p> <p>中間報告会兼フィールドメソッドシンポジウム, フィールドメソッドハンドブック発行</p> <p><リソース></p> <p>機材調達(ソフトウェア)</p>	<p><カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ授業の実施 ・授業内で就業体験実施 ・ビジコン開催 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに基づく学修到達度評価の実施 ・外部評価の実施 <p><広報></p> <p>最終報告書, 事業報告シンポジウム</p>	<p><カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブ授業の継続 ・授業内で就業体験実施 ・ビジコン開催 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックに基づく学修到達度評価の実施 ・外部評価の実施 <p><広報></p> <p>本学ホームページなどに随時状況や自己点検評価を掲載</p>	
全学展開	商学部で準備	商学部で実施・検証	他学部展開・検証	全学に導入	他大学へ波及	
インテンシブ授業の実施	0科目/7科目(4単位科目)	3科目/7科目(4単位科目)	5科目/7科目(4単位科目)	7科目/7科目(4単位科目)	継続実施	
学修到達度評価		<p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の平均値=3.75 ・授業内就業体験参加率75% 	<p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の平均値=3.75 ・授業内就業体験参加率75% 	<p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階評価の平均値=3.75 ・授業内就業体験参加率75% ・ビジコン参加率75% 	継続して到達度を測定し授業改善を行う	



商学部の授業「フィールド実践」

「フィールド実践」の授業の中で製作されて、企業(荒川工業)に活用されているプロモーション動画。



<https://www.youtube.com/@arakawakogyo>



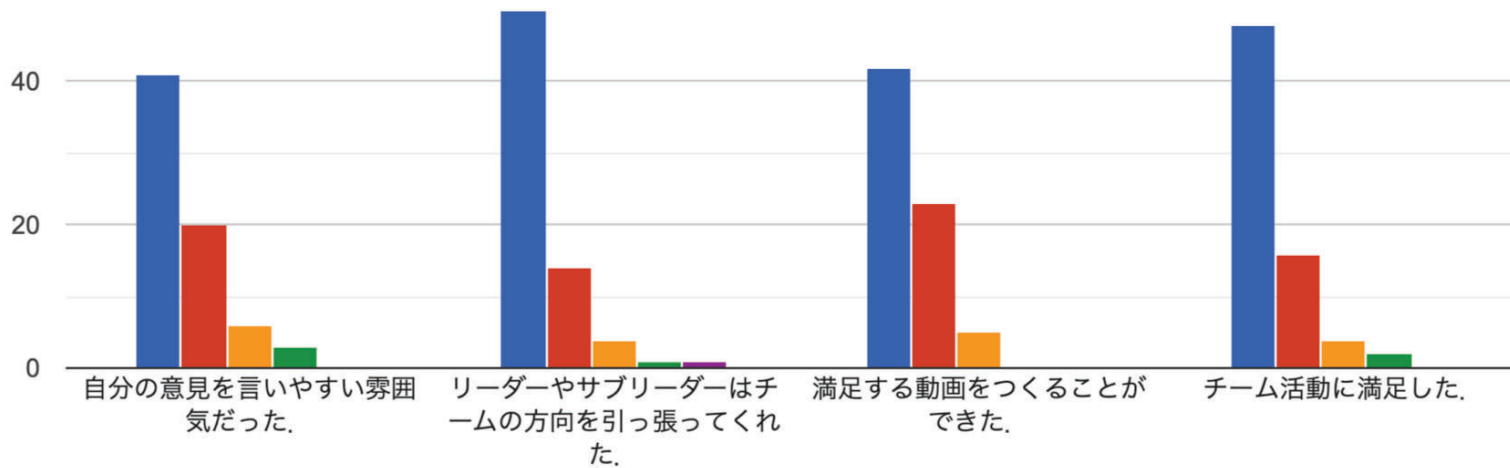
「フィールド実践」での「学修行動調査」

「フィールド実践」の授業において、教員による「LG到達度評価」に加え、学生が回答する「学修行動調査」を追加で実施。動画製作およびプロモーション戦略立案・提案の過程でグループワークが展開され、チームメンバー同士での様々なやりとりがなされた。個人としてチームとしての成長の跡がうかがえる。

5(大変よく当てはまる) - 1(全く当てはまらない)

■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

チーム運営(最終発表会の動画づくりをしたチーム)に関して、当てはまるところにチェックをつけてください。



NUCBビジネスプランコンテスト

参加者は留学生も含めて学部生全体を対象とする。審査員には自治体首長、起業家、金融機関に加え、名古屋商科大学大学院の修了生や教員も参画(大学院との連携を図っている)。



全学展開（他学部への展開）

ケースとフィールドをインテンシブに展開するカリキュラムは商学部独自のもの。
他学部への展開については、学部ごとに違った形で展開していく。

	経営学部 令和5年度開講	経済学部 令和6年度開講	国際学部 令和6年度開講
科目名	「AI実践」	「経済データ分析」	「多文化共生社会の理論と実践」
単位数	4単位	4単位	4単位
対象	経営学部 経営情報学科 2年次学生	経済学部 経済学科 3年次学生	国際学部 1年次学生
開講形態	ターム2の月曜3,4限と火曜3,4限		1週間に2日間開講, 1日2コマ, 7週
概要	「プログラミング入門」と「AIのためのプログラミング」を統合。 AIのコア技術である機械学習の教育を通じて、情報化社会の動向を理解し新たなビジネスを創出するイノベティブなリーダーの育成を目指す。 学生は、アクティブラーニングを通して機械学習の基礎を学び、自分のPCを使ってPythonを用いてグループでプログラムを作成し、仲間と共同で問題解決する力を養う。 また、ターム3の「プログラミング言語（韓尚憲教授）」を履修することで更に理解を深めることが可能。	統計の調査・分析の方法を学び、それを実践する。調査・分析の概要を講義する。 グループ単位で、統計の調査を実施する。調査対象は学内学生。テーマ設定・標本サイズ・抽出方法・質問票（Google Form or 紙質問票）作成・調査期間の決定、調査実施回収。 分析手法を学習し、分析を行う。グループ発表を行う	多言語・多文化共生社会への理解、および実現について、理論（前半）と実践（後半）から学ぶことを目的としている。具体的には、理論篇で海外と日本の言語・文化の比較から、異文化理解への客観的な視点を涵養し、実践篇では、本学の留学生とともに日本の特徴的な文化について協働学習を行い、異文化交流の経験を得る。



商業高校への展開



ビジネス探究
プログラム

インテンシブ教育
プログラム

FIELD
(Field Immersion Experience
for Leadership Development)

